



苦小牧市長
ひろふみ
岩倉 博文

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、市制施行65周年及び苦小牧港開港50周年という記念すべき年でありました。これから先50年も愛される港まちとなるよう「未来へ！みなと大作戦 Gateway to the future」を展開し、記念事業や啓発活動を通して、港への感謝とともに、新たな魅力の創出に努めてまいりました。

また、世代や性別を超え、人権を尊重し、いきいきと豊かに暮らす社会の実現をめざし、北海道で初の男女平等参画都市宣言を行なったほか、4月に市内24番目の小学校となる拓進小学校を開校し、7月には新たな芸術活動の拠点として苦小牧市美術館「あみゅー」をオープンするなど、明日の苦小牧市のために、たくさんの方の希望の種を撒くことができた一年でありました。

さらに、市長就任以来のテーマである財政健全化において、新たな「歳出構造改革」に着手いたしました。既存事業を見直す行政事業診断と、今後の施策を検討する重点テーマ事業の選定を行い、予算付替えの観点から歳出の見直しを進めてまい

りました。今後も、引き続き安定的で強固な財政基盤の確立に向け取り組みを進めてまいります。

さて、本年は、市民の皆さまが健康で安心・安全に暮らすまちづくりを進めてまいります。その中で、喫緊の課題となっていた市立病院の麻酔科につきましては、常勤医が派遣されることとなり、さらなる人員体制強化のため、これからも引き続き医師や看護師の確保に努めてまいります。また、子育てにおいては、老朽化の進んだ児童館を廃止し、新大成児童センターを開館いたします。そして、地域の子ども・子育て支援の充実を目的として、「子育て関連部署を一元化する」「健康子ども部」の設置を含めた組織機構改革を進めてまいります。

スポーツにおいては、本市におけるアジア初のブルームボール世界大会の開催、新ときわスケートセンターのオープンなどが控えておりますが、何とんでも女子アイスホッケー日本代表「スマイルジャパン」のソチオリンピック出場が大きな目玉です。氷都とまこまいに縁のある選手が多数出場するこの大会を、まち全体が応援し、楽しんでいただけるよう、盛り上げていきたいと考えております。

本年は私にとって任期最終年となります。誰もが安心して暮らし、未来に向かって明るい希望の持てる「誇れるまち、苦小牧」の実現に向けて最後まで力を尽くしてまいります。結びに、市民の皆さまのご健勝とご多幸を祈念申し上げます、新年のご挨拶いたします。

平成26年 新年を迎えて

市長・市議会議員新年あいさつ



苦小牧市議会議員
しげき
西野 茂樹

市民の皆さま、明けましておめでとうございます。

新しい年を健やかに迎えたいと市議会を代表し、心からお慶びを申し上げます。

昨年は、苦小牧港開港50周年という節目を迎えました。また、市民が長年待ち望んでいた美術博物館がオープンし、加えて、道内都市で初めての「男女平等参画」の都市宣言が行われました。それぞれ記念すべき出来事でありましたが、苦小牧港は北海道経済を牽引する物流の拠点としてさらなる飛躍発展を目指していかなければなりません。また、美術館は市民の芸術・文化・郷土史が醸成されるカルチャーセンターとしての機能を発揮することを望みます。そして声高らかに宣言された「男女平等参画」は実効性を高めるために市民の皆さまのご理解とご協力が不可欠であり、いづれも新しい年は着実に前進させなければなりません。

日本経済は「アベノミクス」の三本の矢の基で進められています。が、まだまだ私たち市民の生活には実感がない状況と言えます。今後の消費税アップも懸念されます。本市は今年、市長選挙の年となり、新年度の予算編成は骨格予算からのスタートとなります。昨年は全国的な異常気象により風水被害が多発し、本市も被害が発生しましたが、安全で安心して暮らしていける防災対策を始めとする行政課題を滞らせることなく推進していく所存であります。

市議会は市民本位を基本理念として、市民の目線に立ち市民の声を反映させるまちづくりに努めるとともに、進展する少子・高齢社会においては市民のニーズを的確に捉え、議員一同、最大限の知恵と工夫をもって対処してまいります。

また、議会改革として議員定数の削減を決めましたが、今後とも不断の努力を怠ることなく効率の良い充実した議会運営を目指していきたいと存じます。

新しい年も市民の皆さまの負担に応える市議会として活動することをお誓い申し上げます。

結びに、皆さまにとりまして本年が幸多き年となりますことをご祈念申し上げます、新年のご挨拶いたします。